

『海紅』（山崎聰第一句集）より

愛にぶき冬はじまりて山のこえ
渚あり悴みて男の手の刃物
陽の底で母濡れ十二月八日の森
涸れ川に雪降る眼帯の裏灯り
灯は朝のかなしみばかり蜜柑山
冬夜逢い人差し指のあたたかさ
文鳥を飼い白濁の冬没陽
傷をもつもの光り合う枯木山
海鼠に眼星のまわりに空ありて
降る雪や男あらわれ女消ゆ